

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	大正区
学校名	平尾小学校
学校長名	飯塚 博恭

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・平尾小学校では、第6学年 51名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率を全国と比較すると、国語−5.8%、算数−13%、理科−12.1%であった。令和3年度は全国平均との差が国語−12.7%、算数−14.2%であり、本校が令和2年度より研究に取り組んでいる教科の国語科において、確実に全国との差は縮まっている。また、算数・理科においても国語の学習を通して培った「言語力」を生かして、筋道を立てた思考や説明する力が身についてきている。しかし、数と計算領域においては、成果が表れていない。また、平均無回答率が国語0.15%、算数0.25%、理科0.23%と全国と比べても解答を書く児童の割合が非常に高く、児童の学習意欲の高まりを感じられる結果であった。

教科に関する調査より 各教科において全国・大阪府の平均正答率を上回っている設問があり、以下の点について成果が見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 問題2三 “「目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方をくふうすることができるかどうかを見る」”、問題3三(2) “「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかを見る」”において、全国・大阪府の平均正答率を上回った。これは、本校で令和4年度から学力向上と密接にかかわる国語科指導の研究に取り組み、特に教材文分析に注力していることや、大阪市取組施策の学力向上支援チーム事業の継続した取り組みが、大きな成果として表れていると考えられる。

[算数] 問題4(1) “「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかを見る」”では、全国・大阪府の平均正答率よりも上回る結果となった。これも、教員による授業改善と大阪市取組施策の学力向上支援チーム事業の放課後学習を継続してきた成果が表れていると言える。

[理科] 問題1(2) “「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかを見る」”では、全国・大阪府の平均正答率よりも上回る結果となった。理科専科教員による授業力向上により、「根拠を基に説明する力」が伸びたと言える。

質問調査より

「(5)自分には、よいところがあると思いますか」の質問項目において最も肯定的な回答が全国・大阪府の平均率を大きく上回る(+20ポイント以上)結果となった。また、「(10)困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問項目において最も肯定的な回答が全国・大阪府の平均率を大きく上回る(+10ポイント以上)結果となった。いずれも、大阪市取組施策の「ブロック化による学校支援事業」での学びサポーターや主幹学校司書などの人的支援も活用し、すべての教職員が共感的に子どもを受け止め、寄り添ってきた成果である。子どもに繰り返し達成感と所属感を味わわせる指導・支援を積み重ね、子どもの自己肯定感を高めることができていると言える。

今後の取組(アクションプラン)

- ・今後も子どもに繰り返し達成感と所属感を味わわせる指導を積み重ねることで、子どもの自己肯定感を高め、何事にも前向きに取り組み、最後までやり抜く姿勢を育っていく。
- ・国語科、算数科、理科を中心に主体的・対話的で深い学びの指導法についての研修を計画的に推進する。
- ・ICT支援員の学校訪問を活用して、ICT機器環境の充実や学習効果を高める活用法についての実践研修を計画的に推進する。
- ・主幹学校司書がサポーターを兼務し週5日配置され、学校図書館開放や読み聞かせ、ビブリオバトルなどの取り組みを推進する機会が増加した。これを基盤に、さらに子どもたちが本に親しめるような読書環境の整備を図り、文章に触れる機会を増やすとともに、感じたことを表現する力を高められるような取り組みを推進する。

【 全体の概要 】

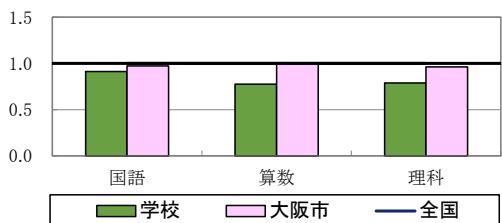
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	61	45	45
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

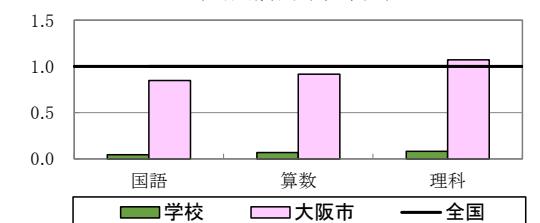
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	0.2	0.3	0.2
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



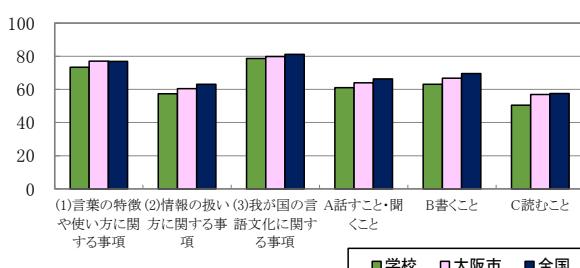
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	73.4	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	57.4	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	78.7	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	61.0	64.0	66.3
B 書くこと	3	63.1	66.7	69.5
C 読むこと	4	50.5	56.9	57.5

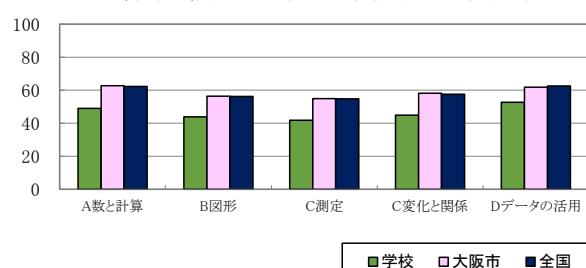
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	49.0	62.7	62.3
B 図形	4	43.9	56.4	56.2
C 測定	2	41.8	54.9	54.8
C 変化と関係	3	44.9	58.2	57.5
D データの活用	5	52.7	61.9	62.6

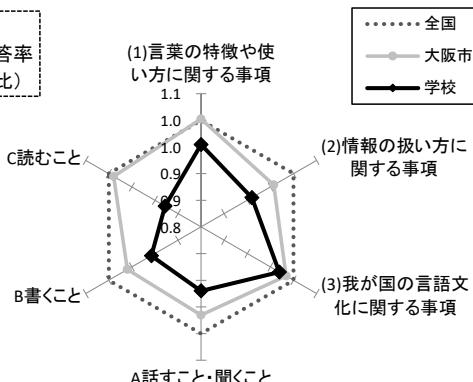
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



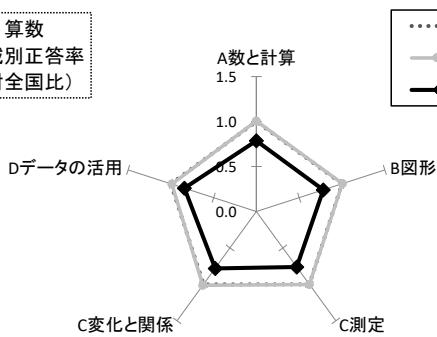
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

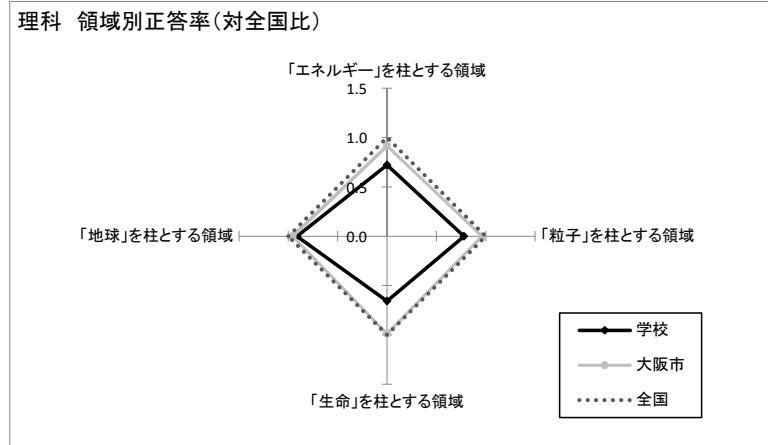
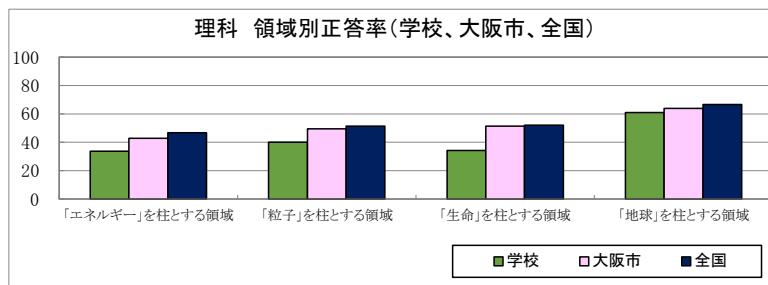


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	33.7	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	40.1	49.5
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	34.2	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	60.9	63.8



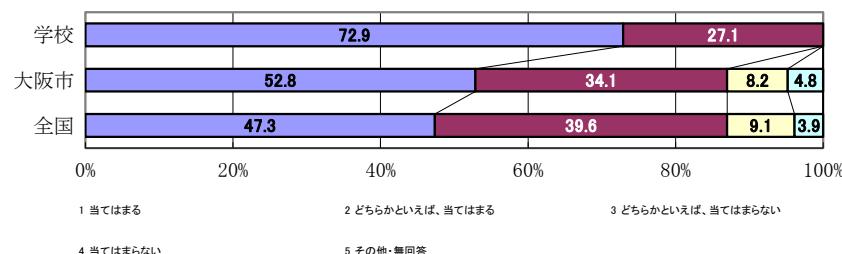
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

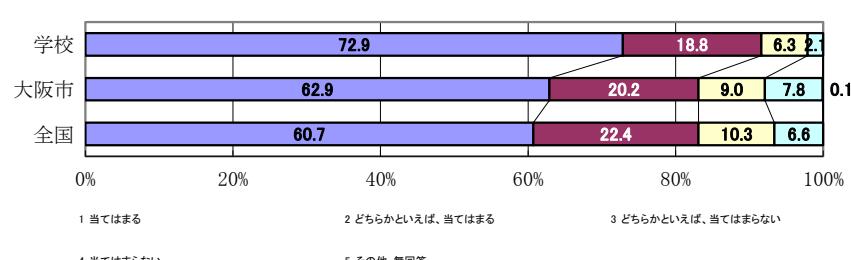
5

自分には、よいところがあると思いますか



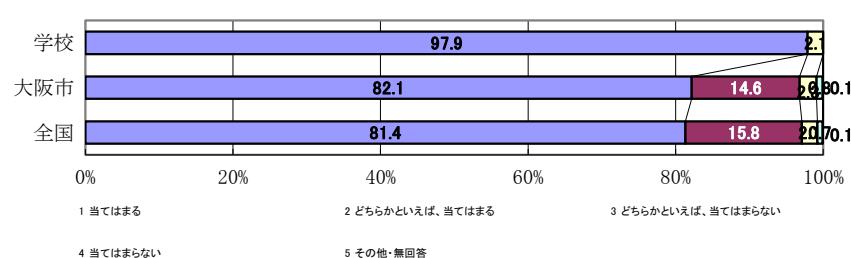
7

将来の夢や目標を持っていますか



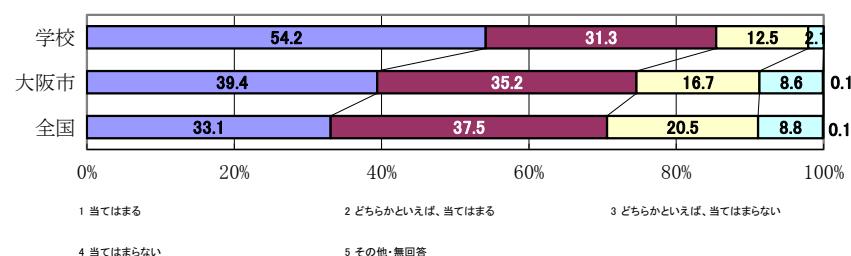
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



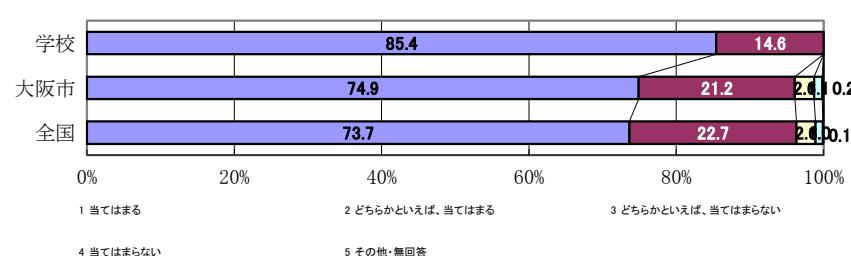
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



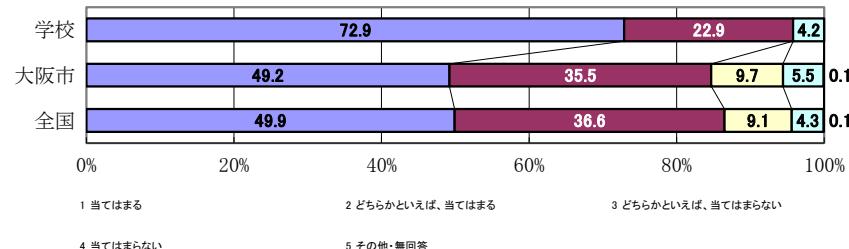
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

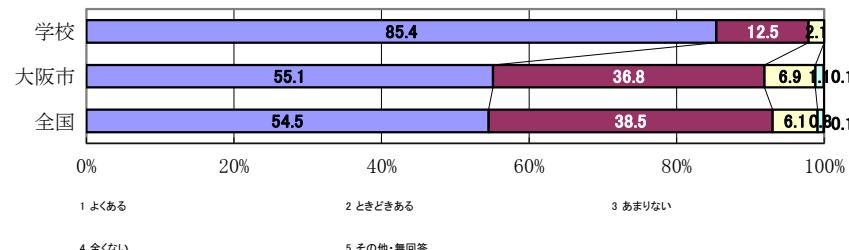
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



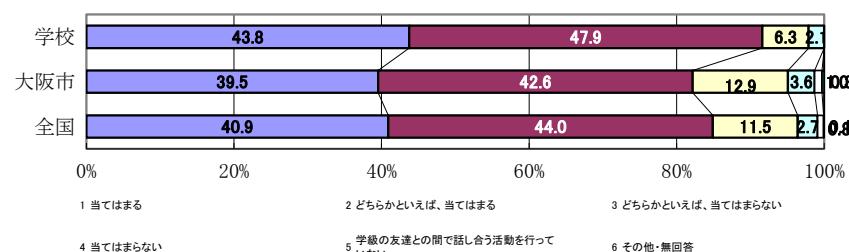
15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



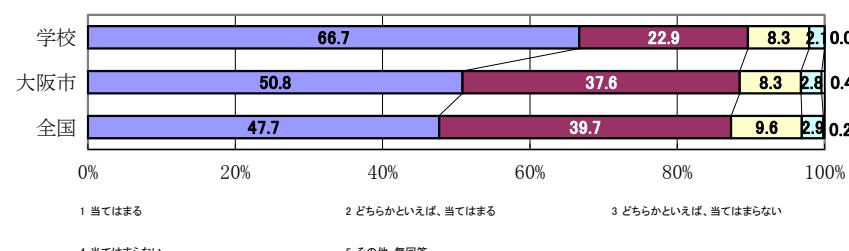
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができていますか



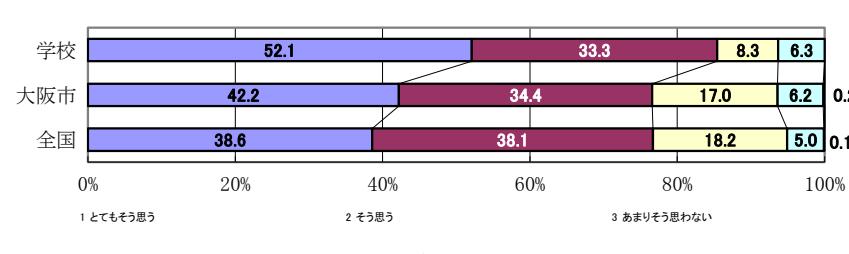
38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



75

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか



学校質問より

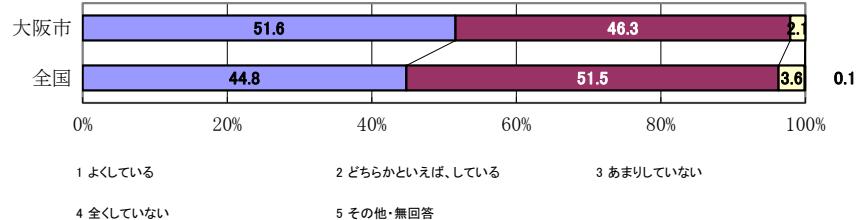
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

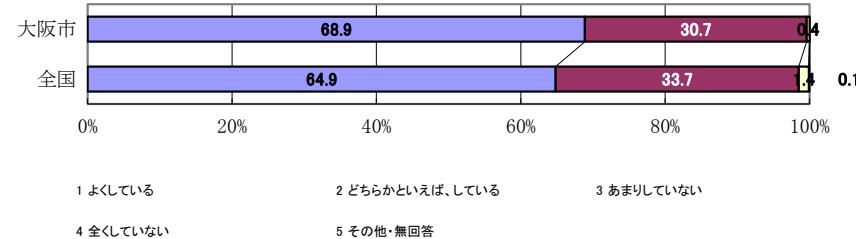
17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

学校 「よくしている」を選択



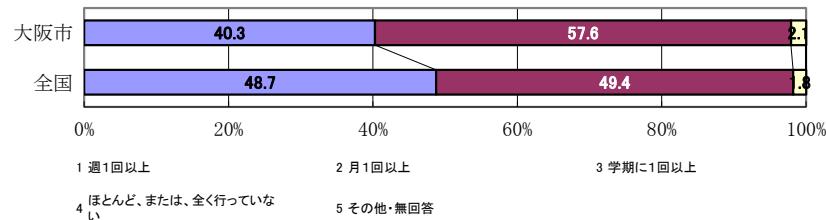
学校 「どちらかといえば、している」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

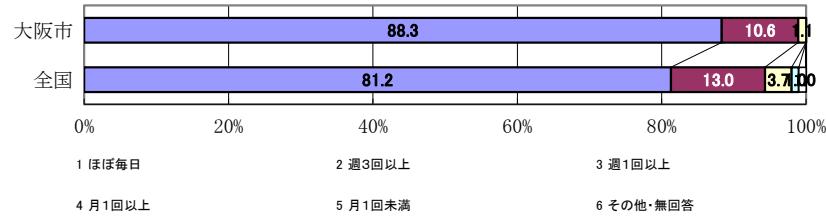
学校 「週1回以上」を選択



54

調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度に、児童が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

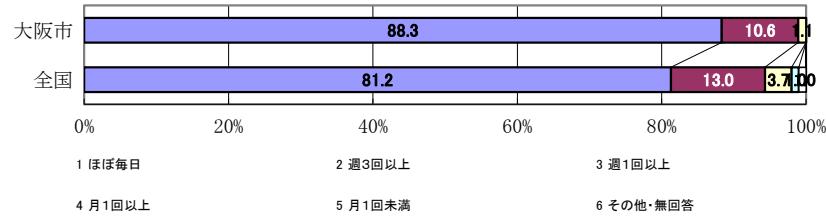
学校 「週1回以上」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



66

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校 「毎日持ち帰って、毎日利用させている」を選択

